

出会い ふれあい 助け合い

サロンあべの

VOL.195

さろん亭



〈サロン・あべの〉 8月の出会い

平成14年8月4日(日) 〈サロン・あべの〉 8月の出会いは、恒例の「あべのカーニバル」での「さろん亭」の開店です。

第29回「あべのカーニバル」の会場・市立工芸高校グラウンド内の「なんでも市どおり」には多くの店が出店します。その一角の「さろん亭」のテントの中では皆さんから提供していただいた品物が所狭しと並べられています。

「さろん亭」の開店準備中もお客さんが掘り出し物がないか、お買い得な物はないかと品定めをされます。

そして午後3時、いよいよ「さろん亭」が開店しました。店頭でお客さんとの値引き交渉などの真剣なやりとりが交

わされます。中でも石鹸やタオルは人気商品なので、次々と売れていきます。また、今回、普段のサロン活動をコンパクトに紹介した「チラシ」を「さろん亭」でお買い上げの方にお渡しして、しつかりPRもしました。売り手は例年より小人数だったのですが、スタッフの介助者もピンチヒッター販売員として大活躍していただき大助かりでした。

「さろん亭」に久しぶりに顔を出してくださる方々もおられ嬉しいかぎりです。そして無事に閉店となりました。ありがとうございます。今年も多くの皆さんに支えられた「さろん亭」でした。(山村貴司)

感謝申し上げます

今夏の暑さはこの他厳しいものでしたが、皆様には大

事ごさいませんでしたか。

さて、その暑さの中今年も「サロン・あべの」は「さろん亭」を開店しました。久しぶりに出会う人たちの笑顔に励まされて、売り上げ倍増・完売を目標にがんばることができました。品物を提供していただいた方々、値段付けや搬送の手伝いをしていただいた方々、そしてセッティングに、販売に、後片付けにと、多くのご協力をいただきましたこと、厚くお礼を申し上げますと共に感謝申し上げます。

ありがとうございます。ここに「さろん亭」の販売報告をさせていただきます。なお、「さろん亭」の収益金は今後のサロン運営に活用させていただきます。

「さろん亭」 収益金

六三、五九六円

(サロン・あべの) 運営委員会

奥田真祐美
リサイタル

小さな愛
大阪公演

日時=11月9日(土)
開場：午後6時
開演：午後6時30分
会場=サンケイホール
入場料=5,000円 (全席指定)
構成・演出=アン・あんどろ
演奏=西川真グループ
お申し込み・お問い合わせ先=
奥田真祐美音楽事務所
TEL・FAX 06-6692-8774
ホームページ
http://www.camphrier.com

ご協力いただいた皆様

セルフ社、安達尚子、阿倍野区
肢体部会カークラブ(井上・竹
下・辻本・山梨)、阿倍野区在宅
サーピスセンター有志、石田
花子、井上礼子、上平幸雄、岡
賀寿子、加賀谷正、蔵田均、桑
田加代子、神城昭子、後藤陽
子、小西京子、阪口悦子、大丸
久美子、高尾澄男、竹下秀樹・
陽子、竹村定子、辻本輝子、手
島八重子、出口正敏、富田十
一・慶子・御喜代、中岡久美
子、中村宣子、難波りんご、原
田仁・博子・友弥・咲子、久
木浩、表谷恵美子、八木千尋、
松田峰子、松村育子、松本克
代、松本聡美、丸山寿美子、倭
満也子、山下愛、山根匡子、山
野莊一、山村貴司、山本篤江、
山本敏子、吉原和郎、芳村和
子、その他の方々

誰でも参加できる場所へ

第4回

サンフランシスコの コミュニティガーデン

林 典生

今回はニューヨークの事例を紹介しましたが、今回はアメリカの西海岸の都市サンフランシスコにおけるコミュニティガーデンについてお話をいたします。

この活動の中心となっているのは1983年に設立されたサンフランシスコ都市園芸家連盟(SIUG)という団体であります。ちなみにSIUGは英語のスラグで「ナメクジ」という訳語があります。

サンフランシスコの場合は1973年に支援制度ができて、幾多の危機があったが、現在、SIUGを例にすると90%がガーデンで

行う事業の市からの委託費や助成で運営されており、その残りは200人以上の支援者や企業からの寄付でまかなっている。

なぜ、ここが現在のサンフランシスコのコミュニティガーデンになくはならなくなったのでしょうか。前回のニューヨークみたいに人権運動の高まりとともに盛んになったというお話をしましたが、ここは有機農業運動の視点で始まったのである。

つまり、このグループの活動は地域の経済の振興に努めていくとともに持続可能な社会を目指して、コミュニティに社会的公正をもたらすことで、住民の生活の質を高めていくことを目指している。

ここは様々な活動を展開しているが、代表的な活動として、「社会更正と職業訓練を目的とした「ユースガーデンプログラム」と小学生・幼児向けの環境学習と社会教育を目的とした「スクールガーデンプログラム」が行われております。

まず、ユースガーデンプログラムは青少年の更正を目指して、軽い犯罪をした青年が罰金を支払うことや少年院に送る代わりに、コミュニティのボランティアをする事

を行うためにコミュニティガーデンでの実習が行われ、SIUGではその担当者までが設けられて、青少年の育成に傾けている。

また、若者の職業訓練として行われており、単に育てるだけでなく、育てたものを収穫し製品にして販売していくことを行っており、有機農法で育てたアーバンハーベルブランドとして有名であり、若者のプライドを育てるようになってきている。事実、修了をした若者がボランティアとしてガーデンを支えています。

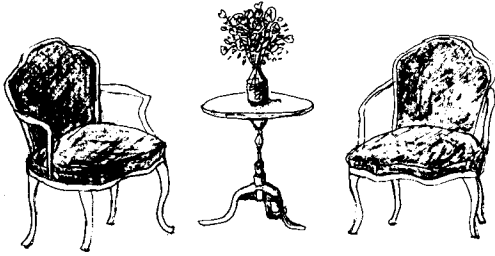
次に、スクールガーデンプログラムは学校内外で設けられており、堆肥作りなどの環境にやさしい園芸を実習したり、緑や環境を重視する学習の場と活用されています。

どの民族でも分かるように多言語のパンフレットを用意したり、障害を持つている方でも参加できるプログラムが用意されており、ステージまで設けてお祭りを行っているガーデンもあります。

今回はアメリカ合衆国コミュニティガーデン協会本部があり、コミュニティガーデンの聖地であるフィラデルフィアの紹介をいたしますので、お楽しみにしてください。

★ 飽きること

ある本に、三十をすぎたら、たいていの人は自分の仕事に飽きてしまうと言っていた。そこで飽きない人は恵まれた人で、そのあと伸びていくだろう。しかし、それ以外の大部分の人は、飽き飽きしながら惰性でやっていくのだという。



山

他の人のことはわからないが、私自身のことを考えてみると、たしかに三十をすぎたころ、私は仕事に飽き始めていたと思う。ある程度、どうやればいいのかわかってきて、手を抜いてやつてもどうにかなるものだと実感してしまう。逆に、いくら一生懸命やつても結果は似たようなもので、だったら最初から何もしないでもいいような気すらしてくる。

また、飽きてくると、人は高慢になるらしい。自分はある程度、知っている。自分が知らないことはあまりない。そう思うから飽きるのだろうから、そのうち高慢になっても不思議はない。

高慢になれば、さらに人に教えたいという気持ちになることがある。教えることは自分の虚栄心を満足させることに役立つからである。

福祉の実践に長くかかわってきた、だが、それにもいいかげん飽きてきた、そ

こで福祉について教える仕事をしたいと言っている。しかし、自分が飽きてしまったことについて、その魅力を伝えることができるのだろうか。

それでも教えたいと思う気持ちは、飽きからくるものとしては、まだ害は少ない。ひどい場合は、誰かに対して自分の力を見せつけようとする人がいる。たとえば、何か手続きをするために担当者を訪れたら、ひどく高慢な態度で書類の訂正を求められたことがある。自分が飽きてしまうほど熟知している事柄を誰かが知らなかったとき、それを侮ることで優越感を感じ、飽き飽きしたことからせめてもの「快楽」を得ようとしたのだろうか。それとも退屈からくる怒りを、機会をとらえて吐き出しただけなのか。

飽きてしまえば、そのことに目をむけなくなり、心を配ることがなくなる。そのため、そこに新しい何かを見つけてこ

とができなくなる。すると、まったく同じことが繰り返されるように見えるから、ますます飽きてくる。そういう飽きの悪循環がある。

だから、飽きから逃れようとするれば、その悪循環を断ち切らなければいけない。新鮮な発見をするためには、新しい試みをするなど、まずは自分を新たにしていくなければならない。

ただし、一方で、飽きは人が生き死んでいくうえで大切なことかもしれないとも思う。飽きることなく、あれもしたかった、これもやりたかったという思いが強すぎると、この世から心穏やかに去ることはできない。あとしばらく生きても、やはり同じような日々が続くのだからと、少しばかりの飽きがきたら、安らかに目を閉じられるのではないか。最後にはほどよい飽きが私たちには必要なのだろう。

(知)

サロンの一筆箋

一冊一〇〇枚綴一五〇円

おむすび

一週間ぐらい前のことです。

私はお昼前に外出先から帰ってきますと、妻が、「おむすびを作っておいたわ」とにこにこしながら迎えてくれました。

私は早速、手を洗って食卓に着きますと、いかにもおいしそうな三つのおにぎりがお皿に入れて置いてありました。私は手が不自由なために、おむすびが食べやすいように程よい大きさと形に握ってくれていました。

スーパーやコンビニで時々、おむすびを買うのですが、妻の手作りのおむすびは本当に久しぶりのことです。

おむすびと言えば、ふとこんな話を思い出しました。あの母親が我が子におむすびを

稲垣 恵雄

④8

晴れのち晴れ

作って幼稚園に持って行かせました。そして子供はお昼におむすびを食べようとしますと、「あなたとお母さんはどこでもおむすびを作っているという意味でおむすびを作りました」という手紙が添えてありました。先生にその手紙を見せました。先生は「とても良いお話ですね。すばらしいお母さんですね」と目を潤ませて読んでおられたそうです。

私もわずかな言葉ですが、その母親の書いた手紙を読んで感動しました。妻が心をこめて握ってくれたおむすびを食べながら、夫婦の絆や大切さを改めて感じました。そしてまた妻に対して「おいしいおむすびを作ってくれてありがとう」と心の中でそっと手を合わせました。

植物あれこれ 第四十四回

山口康二郎

「畑の医者」パセリ

ハーブを育て始めて、かれこれ十年になり、田舎の畑には二十種類くらいが茂っています。手入れが悪く、中にはメートルを越えるものもあります。ミントは畑をほみ出して、庭にもあちこち芽を出しています。

整理をしたのはやまやまですが、この厳しい残暑にはかきません。あまりつけたくない冷房をつけ、見るともなくペラペラと本をめくっています。偶然にも「畑の医者」という文字が眼に飛び込んできました。ヨーロッパでは、バラの生育を助け、しかも香りを良くするハーブということでパセリの別名である、とありました。パセリはセリ科の二年草で、肥沃で湿り気のある土を好み、

半日陰でも育ちます。私も、家の西側に植えて、ほとんど何もしないのに毎年青々と育ってくれるパセリを大いに利用させてもらっています。

パセリが「畑の医者」といわれる理由は、バラばかりではなく、人間にとっても、すばらしい効能を発揮してくれることにもあると思います。カロチン、ビタミンC、B類があり、鉄分、芳香成分、カルシウムが含まれています。薬効としては、貧血予防、疲労回復、芳香による食欲増進の効果もあるといわれます。芳香があり、薬効があり、料理に使えるという三要素が備わったパセリはハーブと呼ぶにふさわしい植物であるといえます。

以前にもハーブについて書きましたが、本来は、バジル類、ミント類、ヒソップ、

デイル、コリアンダーなどの草木を指しますが、その定義はだんだん広がり、熱帯性樹木や、根茎類など、スパイスの範疇に入っているものも含めるようになってきました。中には使い方を誤れば害になるものもあります。

私は「食べるハーブ」専門でいきたいと思っています。

残暑厳しい時、冷たいハーブティーはいかがでしょう。



美智子のこんな話

岸田美智子

支援費制度への準備はできていますか？

異常に暑かった夏も一段落ついて、朝夕は涼しくなり、季節の変わり目を感じはじめた今日この頃ですが、私たち障害者の間では何か落ち着かない状態が続いています。それは、私たち障害者の生活を支えてきた、福祉施策のあり方が大きく変わろうとしているからです。皆さんはもうご存知と思いますが、来年の四月

「支援費制度」がスタートし、この十月頃から利用者の方の申請が始まっていきます。

「自立生活センターくまいどく」でも大阪市からの情報にビクビクしている状態が続いています。「全身性障害者介護人派遣事業」の制度がどうなっていくのか？今までのように介助者との仲人契約ではおそらく利用できなくなりますし、最高利用時間の一五三時間も「ガイドヘルパー」と「ホームヘルパー」に分かれてしまい、時間数が大幅に減ってしまう可能性があります。

これまでは、作業所の開所時間中に職員不足を補うために、この制度を利用されている方も多いと思います。このような方は作業所に通うことすらできなくなる可能性があります。介助者の資格制度については一定歯止めがかけられ、四月の時点では資格がなくても介助は続けられるそうです。

そして何より心配なことは、支援費の

良い点である「サービスを選べる」点について、本当にそういう状態になっていくのでしょうか？

また、どれだけ「介助派遣の事業所」が増えたでしょうか？ また、入所施設の利用者一人ひとりに「支援費制度」の内容が伝わっているのでしょうか？ きっと慢性的な職員不足のため、あまりその努力ができていない入所施設が多いような気がします。まだもう少し時間があるので、施設職員の皆さんもできるだけ努力してほしいと思います。この情報こそが利用者である障害者のより良い生活作りにつながって行くことだと思いますし、利用者自身のエンパワメントに繋がって行くのだと思います。

○自立生活センター

MY-DOくまいどく(岸田)

大阪市住吉区長居西一―九―十二

TEL 〇六―六六〇九―三三三三

FAX 〇六―六六〇九―三三二〇

E-mail=cil-mydo@jasmine.ocn.ne.jp

お知らせ

<サロン・あべの> 10月の出会い

日 時…10月19日(土) 午後1時～4時
 場 所…育徳コミュニティーセンター2階
 研修室(スロープ・車いすトイレ有)
 大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
 TEL 06-6621-1901
 最寄り駅＝

- ・地下鉄御堂筋線「西田辺」
- ・赤バス「育徳会館」

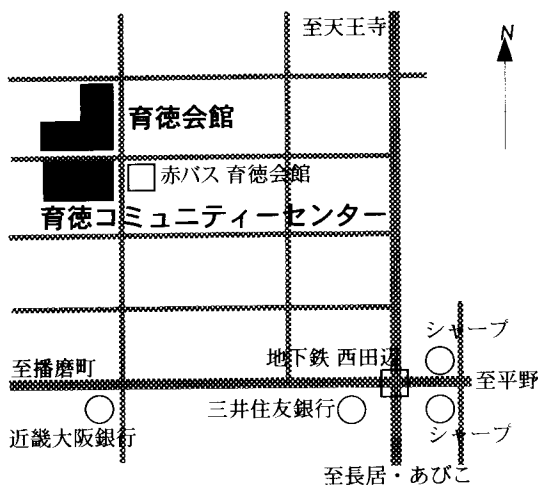
内 容…(障害者の)スポーツに親しもう
 ～特に重度障害者のスポーツを中心として～

パネラー…奥田邦晴氏
 (大阪府立看護大学医学部)

会 費…なし

問い合わせ先…

TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



平成12年6月より1年間、本紙に「自立生活理念を考える—自己決定と介助—」をご寄稿いただきました黒田隆之さんから近況を知らせるお便りをいただきました。

残暑お見舞い申し上げます。

今年は暑さも格別ですが、皆さまにはお変わりなくお過ごしのことと思います。

さて、私事ですが、今年の3月に大阪府立大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程を単位取得退学し、4月より神戸親和女子大学文学部人間科学科の専任講師として勤務しております。社会福祉援助技術論、援助技術演習、実習指導などを担当しております。2003年度からは新しくできる文学部福祉臨床学科の所属となる予定です。

私が、こうして教員、研究者としてスタートできるのも、多くの先生方、友人・知人の皆さま方のご指導のおかげであると感謝いたしております。これからも、社会福祉教育・研究活動、そして障害のある人の地域生活支援という実践活動に邁進していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

まだまだ猛暑が続きますが、皆さま方にはどうぞご自愛のほどお祈り申し上げます。

2002年8月

黒田隆之



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」10月の出会い

日時:10月6日(日)午後1時30分~4時

場所:淀川区民センター「やすらぎ」

大阪市淀川区三国本町2-14-3

内容:家庭でのゴミ減量で、きれいな地球を
~地球温暖化問題がますます深刻化しています。身近
なところから環境負荷の少ない生活で楽しく、無理な
く努めましょう~

パネラー:鈴木靖文氏

会費:なし

問い合わせ先:淀川区社協(ボランティア・ビューロー)

☎06-6394-2900

E-mail:scrj@ris.ecnet.ne.jp

■「サロン・ひらの」10月の出会い

日時:10月26日(土)午後1時30分~4時

場所:ここにこセンター(大阪府平野区平野東2-1-30)

内容:楽しく書道

参加費:1人200円

問い合わせ先:平野区ボランティア・ビューロー

大西☎06-6795-2200

■「サロン・にし」10月の出会い

日時:10月12日(土)午後1時30分~4時

場所:西区ボランティア・ビューロー室

大阪市西区新町4-5-14 6階(西区役所隣)

地下鉄=西長堀駅4-A号出口からすぐ

市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ

内容:みんなで手話を学ぼう! -入門編-

講師:手話サークル・ながはりの方々

会費:なし

問い合わせ先:宮協 ☎06-4394-5353

FAX 06-4394-5354

■「サロン・にしよど」10月の出会い

日時:10月26日(土)午後1時30分~3時30分

場所:区在宅サービスセンター「ふくふく」

大阪市西淀川区千舟2-7-7

内容:折り紙は不老不死の妙薬

パネラー:藤原氏

会費:なし

問い合わせ先:西淀川区在宅サービスセンター

☎06-6478-2941

■「サロン『アイ』」10月の出会い

日時:10月12日(土)午後1時30分~4時

場所:生野区在宅サービスセンター

「おかちやま」2階ボランティアルーム

大阪市生野区勝山北3-13-20

内容:視覚障害者の日常生活

~これだけお分かって欲しい~

パネラー:前田雅章氏 曾根和弘氏

会費:なし

問い合わせ先:生野区社協(ボランティア・ビューロー)

☎06-6712-3101

■《てくてく・すみよし》10月の出会い

日時:10月13日(日)

集合=天王寺駅 午前10時

現地 夢咲線USJ 駅 午前10時30分

内容:ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの見学

会費:3000円(交通費・昼食などは個人負担)

申し込み締め切り:10月6日

申し込み・問い合わせ先:山本篤江 ☎06-6692-8411

■「サロンつるみ」10月の出会い

日時:10月6日(日)午後1時30分~4時

場所:鶴見会館2階

大阪市鶴見区横堤5-5-51

(地下鉄鶴見緑地線横堤駅5番出口)

内容:元気で地域で子育てを!

パネラー:高倉由子氏(つるみ子育て支援センター)

会費:なし

問い合わせ先:鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)

田村☎06-6913-7070

■「サロンつるみ」10月はお休みです。

ききみみずきん

車いすダンス

真夏日の日差しがふりそぐ八月二四日の昼下がり、長居障害者スポーツセンター二階のフロアで車いすダンスの見学会がありました。二年前(平成十二年九月)にサロンの出会で「車いすで、ダンス!ダンス!ダンス!」のタイトルで中谷まゆみ先生に車いすダンスの楽しさをお話いただき、その優雅なダンスも見せていただきました。その時サロンに参加されたKさんが、そのダンスに魅せられて練習を積み重ねてこられました。そして、練習の成果をいろいろな舞台で発表されていましたが、見に行く機会がありませんでした。ところがこのたびは行きなれた近い場所です。車いすダンスを見せていただけると、案内をKさんから

ただきました。

女性方はきらびやかな白い上着に深紅のロングスカート、髪はシニヨン。目鼻立ちすっきりのお化粧をしていました。男性の方はタキシードでしょうか。正装をされていました。広いフロアを車いすとスタインディング者がペアで滑り出てきては、ルンバやワルツ、タンゴなどのダンスを次々と披露されました。笑顔を絶やさず優美な姿かたちを保ちながらの軽やかな動きは、見る者の心に音楽のリズムだけでない、ほのぼのとした優しいゆらぎを感じさせてくれました。とりはまゆみ先生のミュージカル「命あればこそ」の一場面。情熱的なダンスと声量豊かな歌声で魅了されました。

(け)

From EDITOR

編集後記

今年も大勢の人に支えられて、「さろん亭」は無事閉店しました。1~2面にその様子は紹介しておりますが、改めてこの欄からもお礼を申し上げます。特に提供の品物については紙上でもうるさいくらいに「売れ筋はタオル・石鹸、売れないのは…」とお願いしてきました。これは、来年もおそらく変わらないと思います。ご協力よろしく申し上げます。(石)

<サロン・あべの>Vol.195 発行:平成14(2002)年9月21日 定価¥100
 編集人:<サロン・あべの>運営委員会 表題:井上憲一・筆 文中イラスト:石田美禰子
 事務局:〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方 <サロン・あべの>
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座:サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷:セルフ社〒546-0044大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDビル2階TEL06-6719-8212